

eviDaemon for PAdES

トラブルシューティング

セイコーソリューションズ株式会社

第1版 2025年6月

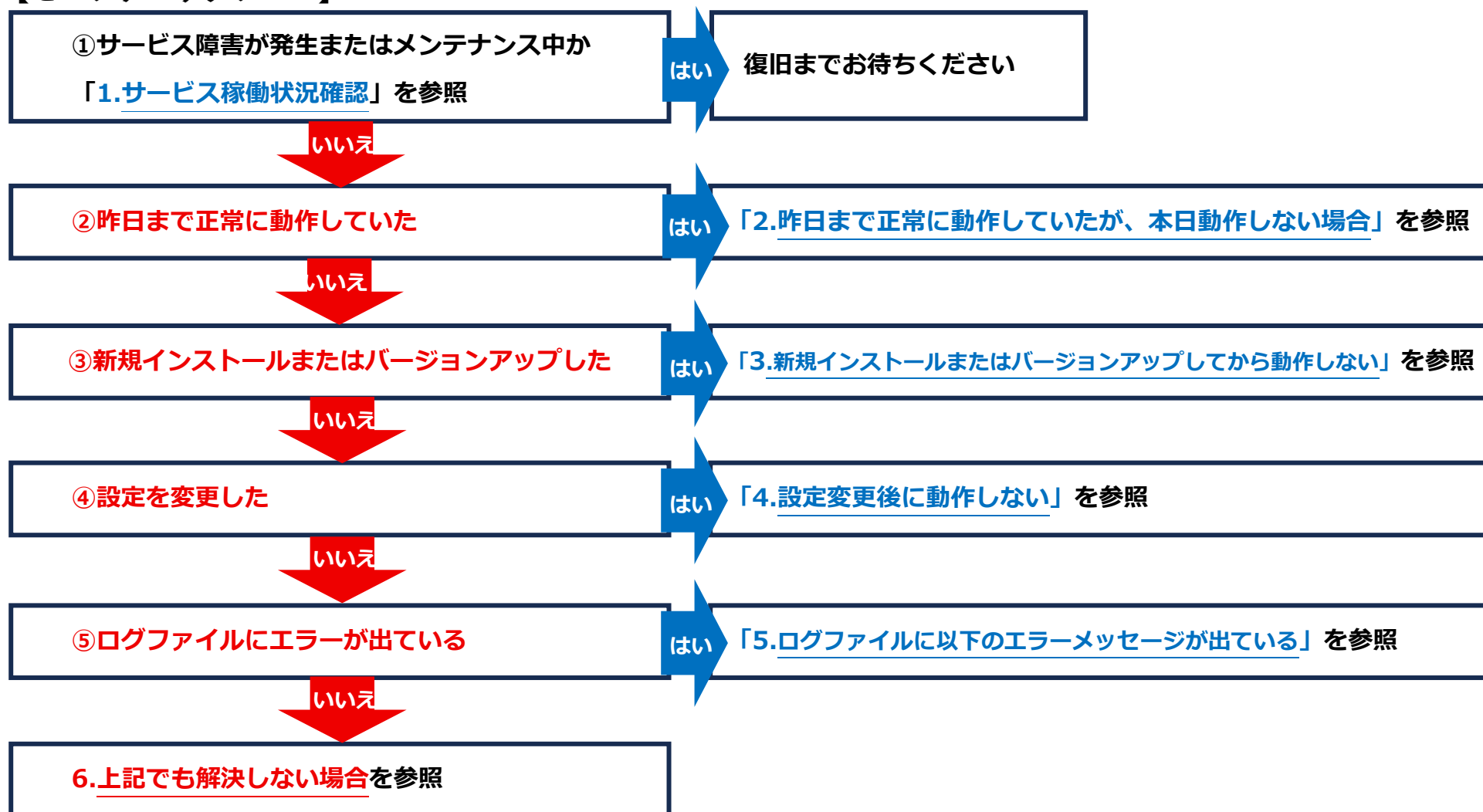
変更履歴

版数	改訂月	詳細
初版	2025 年 6 月	新規作成

トラブルシューティングについて

サービスが動作しない場合は、最初に障害が発生していないか、下図「[1.サービス稼働状況確認](#)」にてチェックをしてください。次に②以降で該当するケースをご参照ください。

【セルフチェックフロー】



1. サービス稼働状況確認

【Q1】：障害が発生していないかサービスの稼働状況について確認したい。

【A1】：サービスの稼働状況については、下記ステータスサイトにてご確認ください。

正常稼働中であるか、障害発生中、メンテナンス中であるか確認できます。

<https://www.seikotrust.jp/service-status/>

✓ 正常稼働 ! メンテナンス中 ✕ 障害発生

サービス	稼働状況	備考
Seiko Trust タイムスタンプ	✓	
eviDaemon for PAdES	✓	
eviDaemon for XAdES	✓	
かんたん電子契約forクラウド	✓	

【Q2】：eviDaemon で正常に動作しない場合に確認ポイントを教えてください。

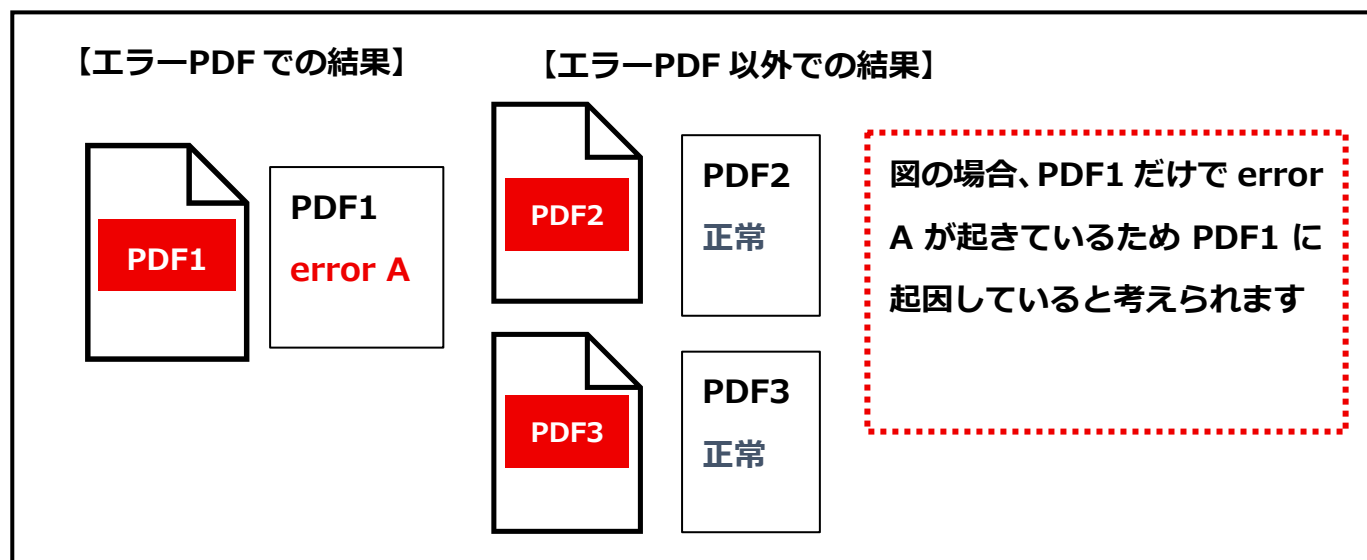
【A2】：下記項番「2.」～「5.」より該当する項目をご参照ください。

2. 昨日まで正常に動作していたが、本日動作しない場合

【一部動作する場合】

・他の PDF で同じエラーが発生するか

PDF に起因している可能性があります。該当 PDF 以外の PDF でもエラーが再現するかご確認ください。



・PDF に起因している場合

該当 PDF を「Adobe Acrobat」または「Adobe Acrobat Reader」で開いた後「別名で保存」をする事で修復できる可能性があります。お試しください。

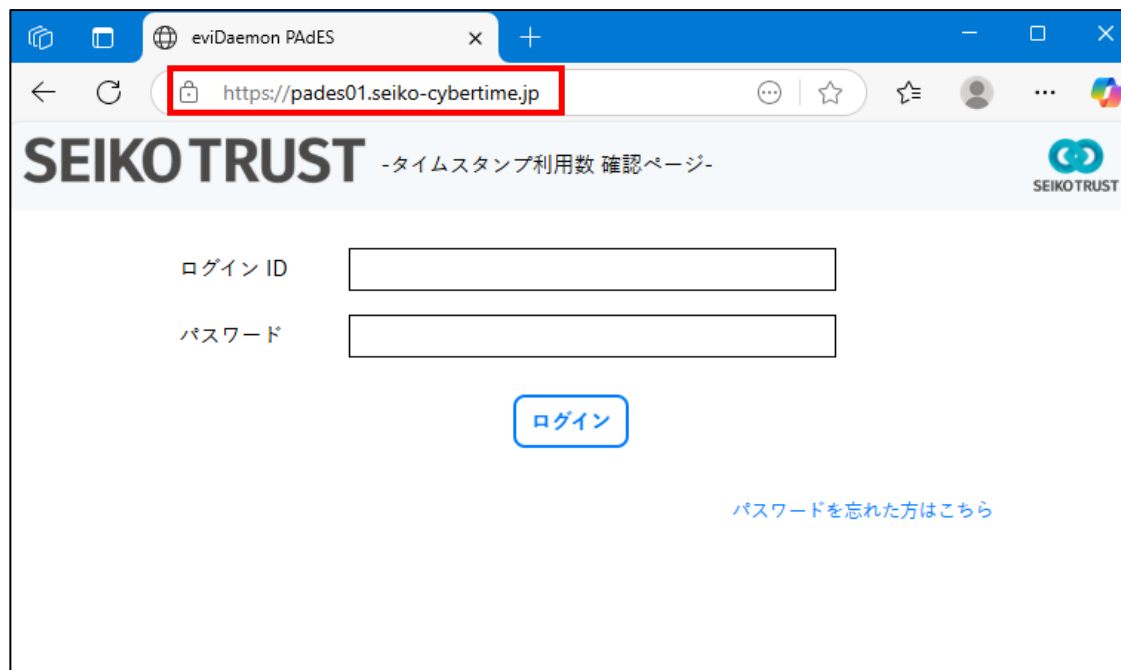
【全く動作しない場合】

・ネットワークに接続出来ているか

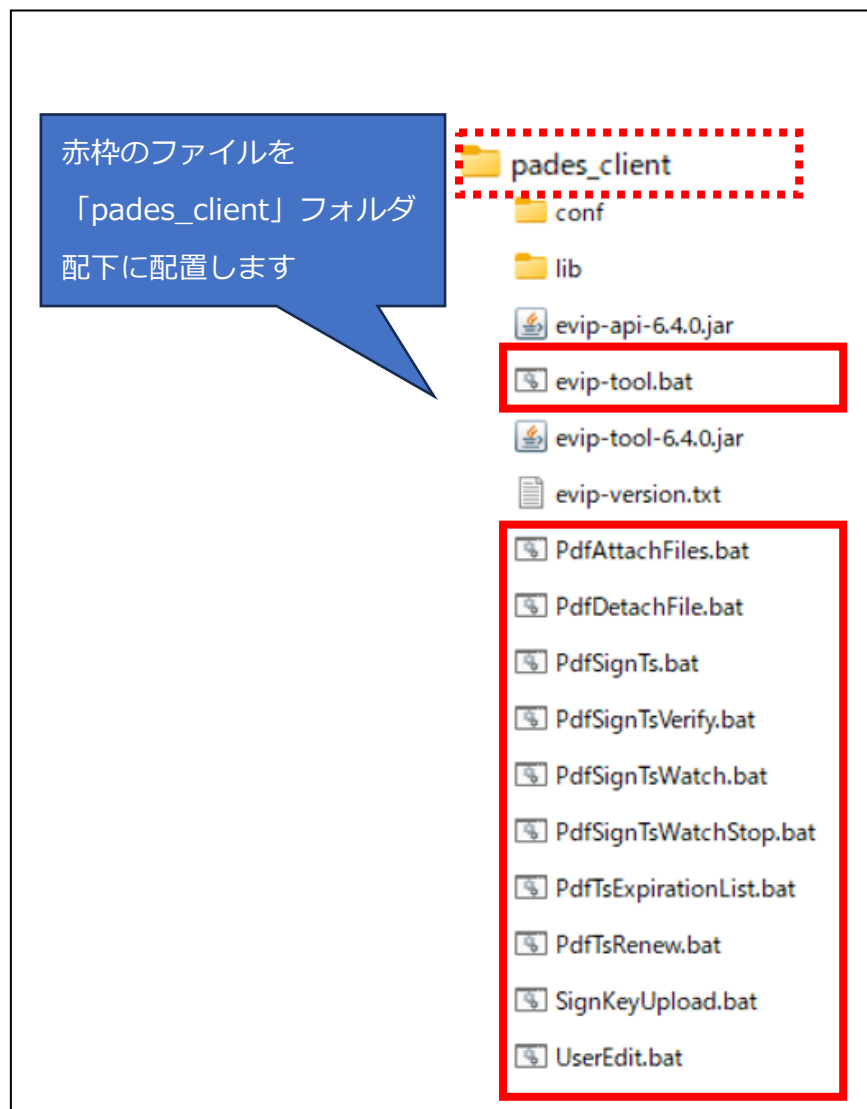
ブラウザで以下の URL にアクセス可能かご確認ください。

「<https://pades01.seiko-cybertime.jp/>」

ログイン画面が表示されない場合は、ネットワークによるエラーの可能性があります。
ネットワークの通信状況やネットワーク構成など通信に関わる環境に変更がなかったかをご確認ください。



3. 新規インストールまたはバージョンアップしてから動作しない



eviDaemon のインストールおよびバージョンアップが正しく行われているか、以下の①～②をご確認ください。

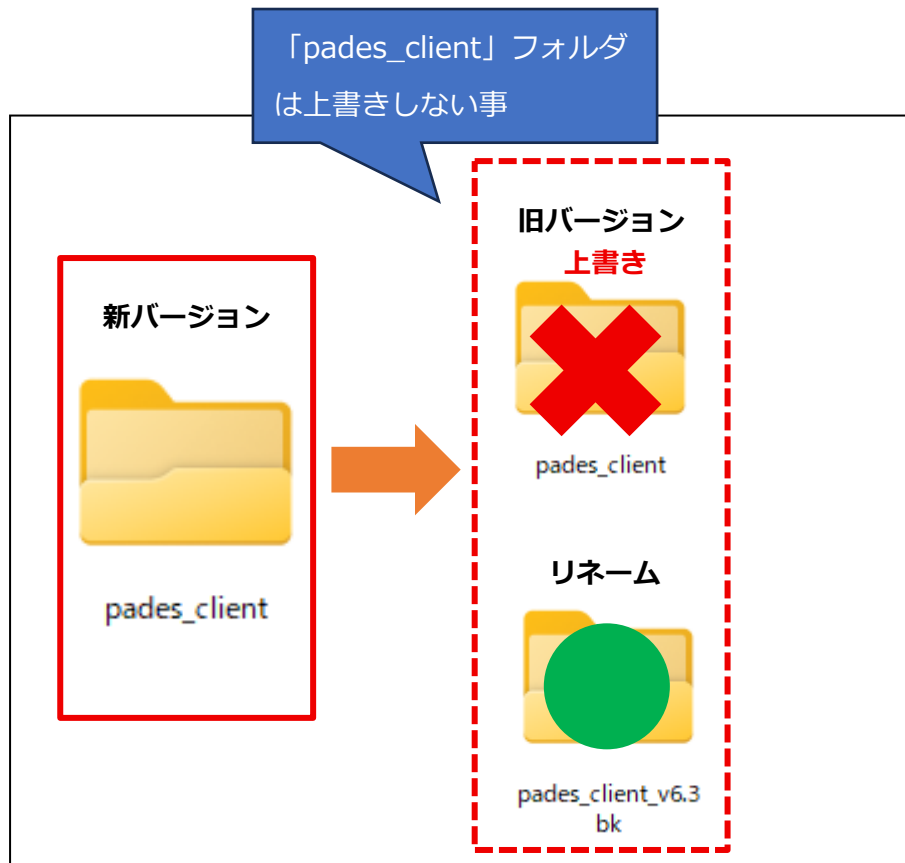
※本記載は Windows 環境に「eviDaemon for PAdES ver.6.4.0」をインストールする例となります。

① バッチファイルの配置

バッチファイルを「pades_client」フォルダの直下に配置する必要があります。

「batch.zip」または「shell.zip」を解凍した「batch」または「shell」フォルダ内ではバッチファイルは動作しません。

「pades_client」フォルダの直下にコピーをしてください。



② 「pades_client」フォルダの配置

eviDaemon をバージョンアップする場合は、旧バージョンの「pades_client」フォルダをリネームしてから新バージョンの「pades_client」フォルダを配置します。

旧バージョンのフォルダに上書きならびに「pades_client」フォルダ内の構成を変更した場合、動作保証は行っておりません。

※eviDaemon ver.5.x 以前は「pades_client」フォルダではなく、「timestamp_client」フォルダとなります。

※詳細につきましては、eviDaemon のモジュールに同梱されています「eviDaemon for PAdES_バージョンアップ手順について」をご確認ください。

4. 設定変更後に動作しない

設定変更後に不具合が発生した場合には、以下の①～④の項目について適切に設定されているかコマンドラインでは設定ファイル、API ではパラメータにてご確認ください。

【設定画面箇所①～③】

```
## サーバー設定↓
server {↓
  ① uriPrefix: "https://pades01.seiko-cybertime.jp/"↓
  ② user: "ユーザー"↓
  password: "パスワード"↓
  connectTimeout: 10 s↓
  readTimeout: 10 s↓
  retryIntervals: [2 s, 20 s] # 2 秒間、20 秒間待機後にリトライ（最大 2 回リト
  ③ }↓
## プロキシ設定↓
proxy {↓
  #host: "localhost" # 定義するとプロキシを利用します↓
  #port: 8080 # ポート番号↓
  #user: "ユーザー" # 定義するとプロキシ認証を行います↓
  #password: "パスワード"↓
}↓
## クライアント証明書設定↓
sslClient {↓
```

①URI

下記 URI が正しく入っている。

「uriPrefix: <https://pades01.seiko-cybertime.jp/>」

②認証情報

user: および **password:**が正しく入っている。

③プロキシ設定

プロキシの値は正しく入っている。入力した項目の先頭にある#は削除している。

【設定画面箇所④】

【変更前】

```
}↓  
pdfSignTsWatch {↓  
  outDir:    "watch-out"↓  
  inDir:     "watch-in"↓  
  errorDir:  "watch-error"↓
```

【変更後】

```
}↓  
pdfSignTsWatch {↓  
A. outDir:    "C:¥¥pades_client¥¥出力"↓  
  inDir:     "C:¥¥pades_client¥¥入力"↓  
  errorDir:  "C:¥¥pades_client¥¥エラー"↓
```

※上記は記載例です。他のパス名も使用できます。

```
errorDir:  "watch-error"↓  
B. pdfType:  DTS↓  
pdfAttachMode: exceptPdf↓
```

④PdfSignTsWatch

※コマンドラインを使用している場合の確認箇所となります。

A. ディレクトリのパスを変更した場合

「エスケープ文字」が入っている。

【例】 outDir の「watch-out」を
「C:¥pades_client¥出力」に変更する場合

【誤】 "C:¥pades_client¥出力"

【正】 "C:¥¥pades_client¥¥出力"

B. pdfType の確認

規定値は「DTS」となっています。EST や ESA の場合は変更が必要です。

【参考】： PDF ファイル以外のファイルを

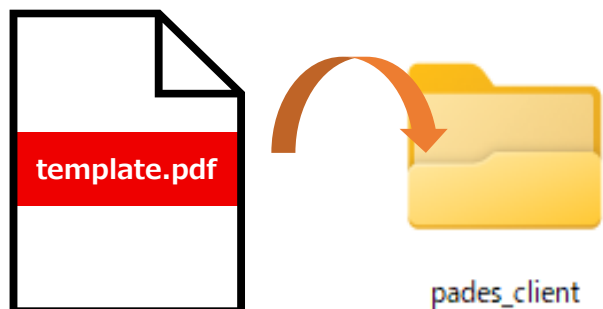
台紙ファイル「template.pdf」に添付する場合の手順

I. 「pdfAttachMode:」が「exceptPdf」になっている
事を確認

II. 「templateFile:」に“template.pdf”を記載

I. pdfAttachMode: exceptPdf↓
II. templateFile: "template.pdf"↓

III. 「pades_client」フォルダに「template.pdf」
ファイルを配置



※台紙ファイル名は任意です。

※上記手順は順不同です。

C. 台紙ファイルの確認

※台紙ファイルを使用している場合の確認箇所と
なります。

I. 「pdfAttachMode:」

以下が正しく設定されている。

- ・「all」：PDF を含む全てのファイルを台紙に添付する
- ・「exceptPdf」：PDF ファイル以外のファイルを台紙に
添付する

II. 「templateFile:」

「null」から「台紙として使用するファイル名」
(例: template.pdf) に変更している。

III. 台紙ファイル

「pades_client」フォルダに台紙ファイルを配置している。

5. ログファイルに以下のエラーメッセージが出ている

【※ログファイルの保存先について】

コマンドラインの場合は以下に保存されています。API をご利用の場合は、ログファイルの保存先をご確認ください

- ・バージョン 5 系の場合：「導入フォルダ¥timestamp_client¥log¥seiko-pdfts-yyyy-mm-dd.log」
- ・バージョン 6 系の場合：「導入フォルダ¥pades_client¥log¥seiko-pdfts-debug-yyyy-mm-dd.log」

【Q3】：タイムスタンプ付与ができない現象が発生し、下記のエラーがログに記録されています。

「PKIX path building failed: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException」

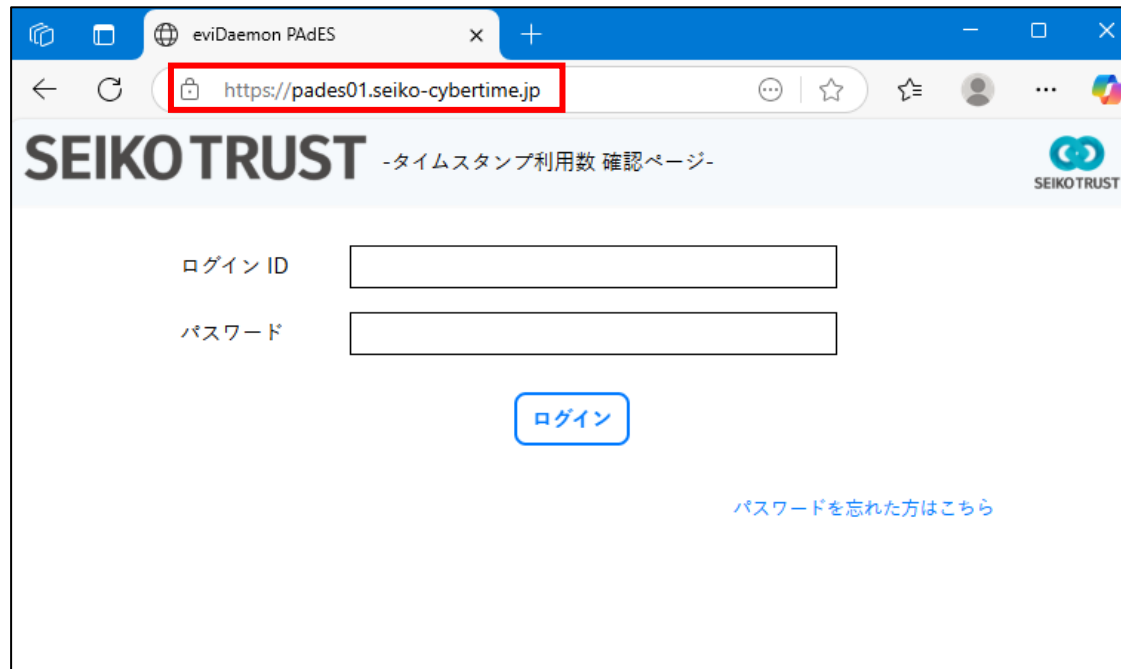
【A3】：お客様内ネットワークにおいて SSL プロキシ証明書を使用している場合、eviDaemon が稼働する Java 環境に対して適切な証明書設定が行われていない可能性があります。

SSL プロキシ証明書機能の使用状況については、次のページ「SSL プロキシ証明書確認方法」の手順に従ってご確認ください。

SSL プロキシ証明書が使われている場合はプロキシサーバが発行するルート証明書を Java の信頼済み証明書ストア(cacerts)に登録する必要があります。

【SSL 代理証明書の確認方法】

- ①. ブラウザにて「<https://pades01.seiko-cybertime.jp/>」にアクセスします。

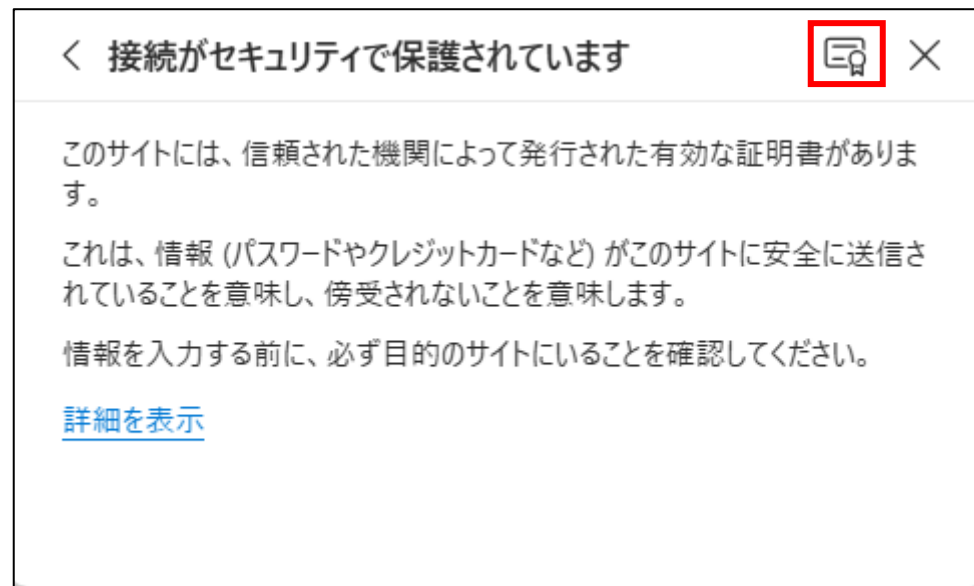


※画面は Microsoft Edge の例です

- ②. アドレスバーの鍵マークをクリックし、「**接続がセキュリティで保護されています**」を選択します。



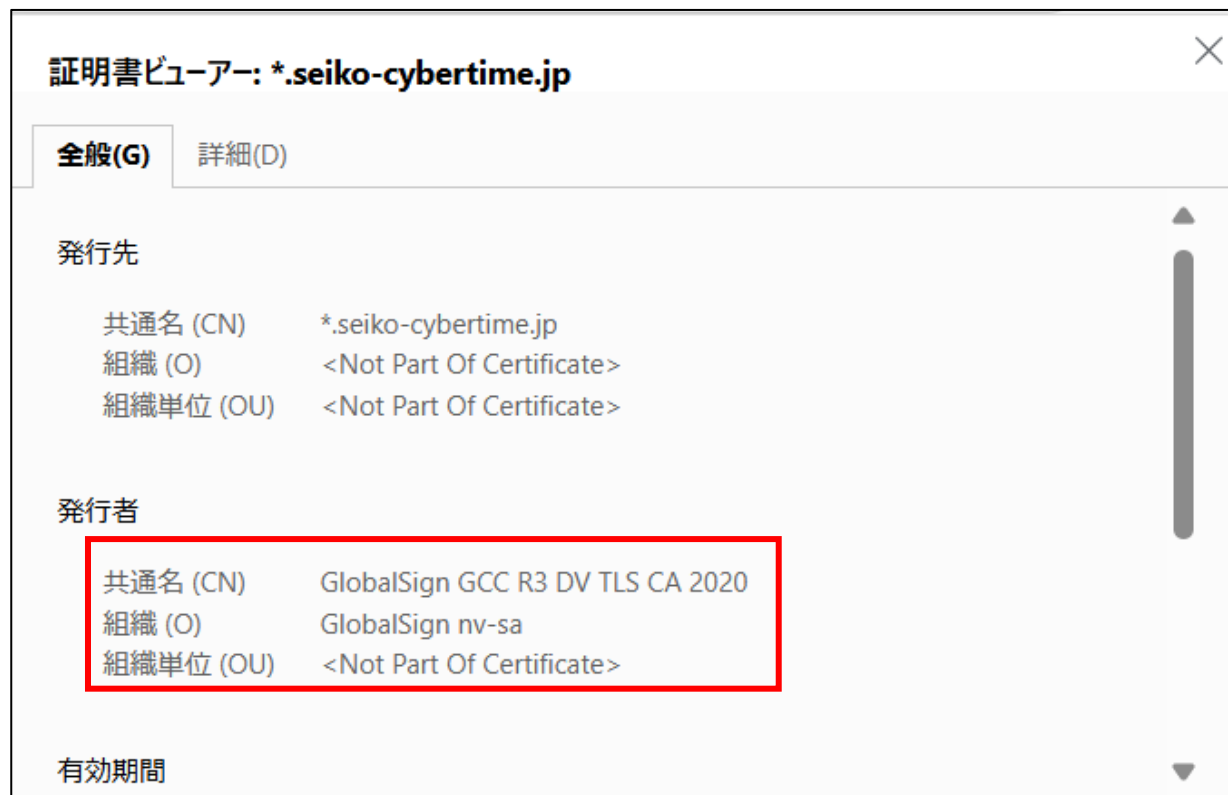
③. 下記画面が表示されます。「**証明書アイコン**」をクリックします。



④. 「証明書ビューアー」画面が表示されます。

発行者（赤枠内）が GMO グローバルサインであることを確認してください。

GMO グローバルサイン以外が表示されている場合、代理プロキシが設定されています。



証明書ビューアー: *.seiko-cybertime.jp

全般(G) 詳細(D)

発行先

共通名 (CN)	*.seiko-cybertime.jp
組織 (O)	<Not Part Of Certificate>
組織単位 (OU)	<Not Part Of Certificate>

発行者

共通名 (CN)	GlobalSign GCC R3 DV TLS CA 2020
組織 (O)	GlobalSign nv-sa
組織単位 (OU)	<Not Part Of Certificate>

有効期間

【Q4】：タイムスタンプ付与時に下記のエラーがログに記録されています。

「Http StatusException: HTTP status error: 400 Bad Request」

【A4】：eviDaemon for PAdES Ver6.x で対応していない署名が PDF に付与されている可能性があります。
eviDaemon で対応している署名につきましては、下記 URL にアクセス後「**検証リスト**」にてご確認ください。

https://www.seikotrust.jp/repository/#verification_list

SEIKO TRUST 検証リスト

SEIKO TRUST 検証リスト

 [SEIKO-TRUST-service verified-list 20250519](#)

なお、検証リスト「1. タイムスタンプ・電子署名サービス（Signature Creation Application）署名およびタイムスタンプ」の確認方法については、次ページの手順をご参照ください。
一部の署名に関しては確認が出来ないものもございますので、予めご了承ください。

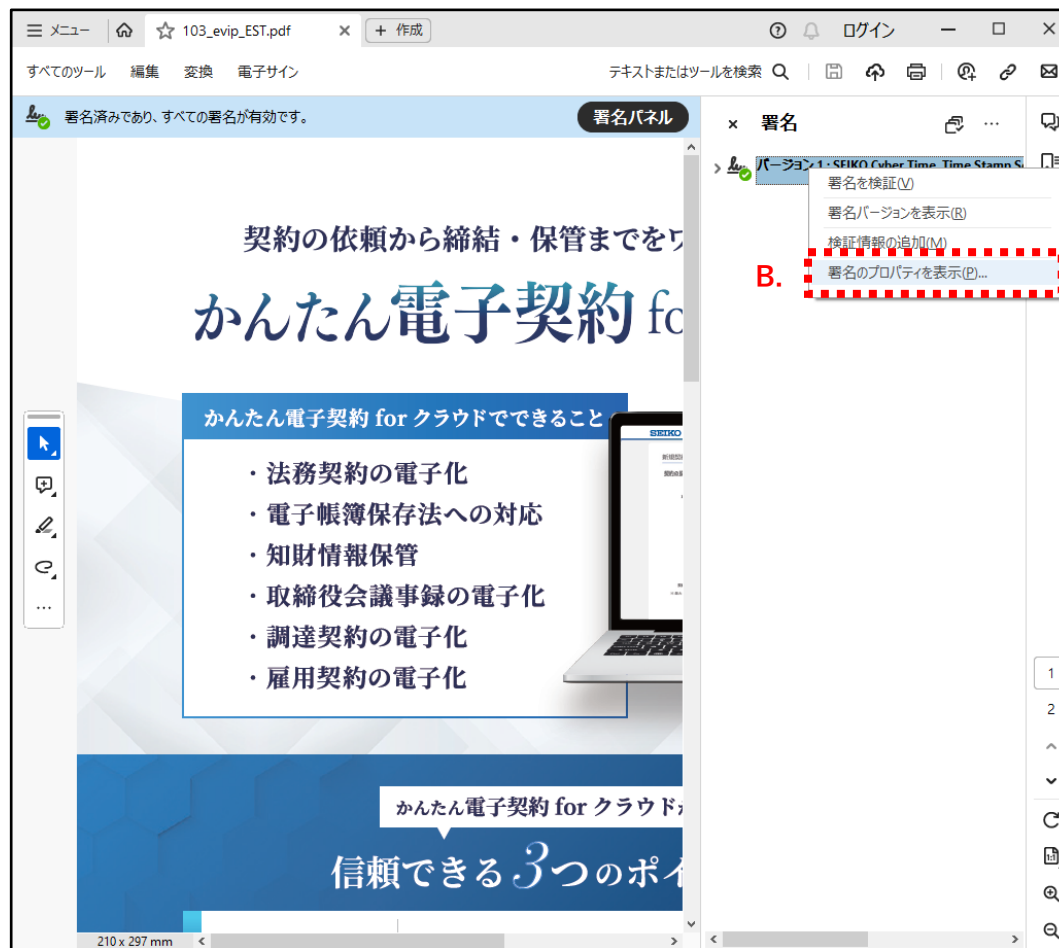
【署名およびタイムスタンプの確認方法】

(1) 「署名のプロパティ」から確認する方法

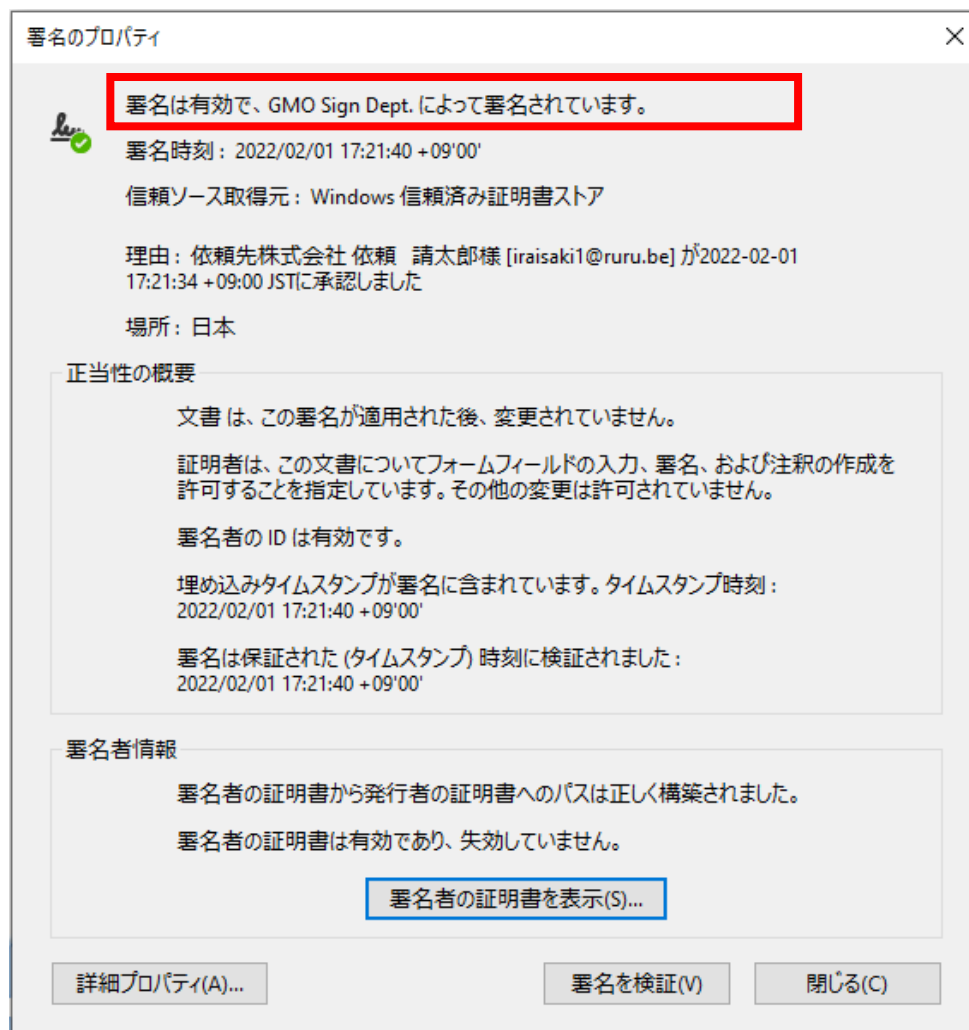
A. PDFを開き、「署名パネル」を選択します。



B. 表示された署名を右クリックし「署名のプロパティを表示」を選択します。



C. 「署名のプロパティ」が表示されます。赤枠部分にて確認します。

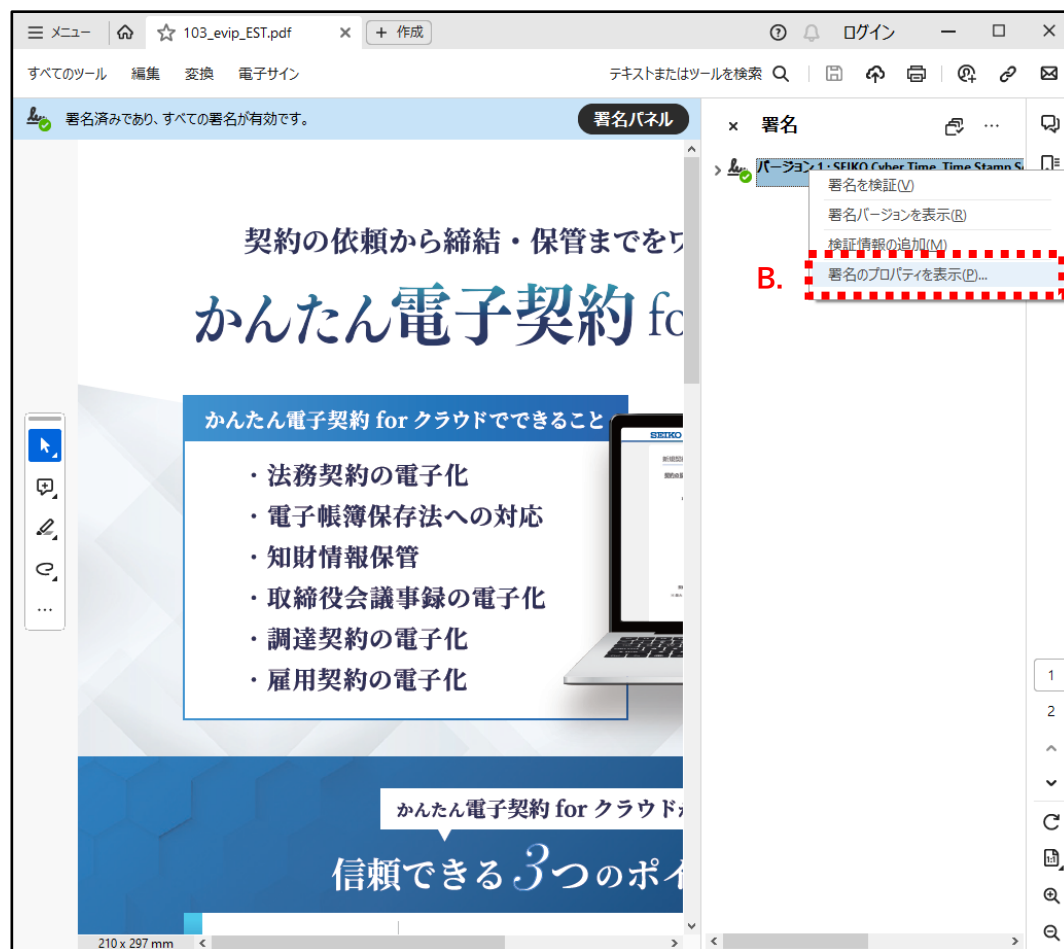


(2) 「詳細プロパティ」より確認する方法

A. PDF を開き、「署名パネル」を選択します。



B. 表示された署名を右クリックし「署名のプロパティを表示」を選択します。



C. 「署名のプロパティ」が表示されます。「詳細プロパティ」を選択します。



- D. 「署名の詳細プロパティ」が表示されます。赤枠部分にて確認します。

署名の詳細プロパティ

署名の詳細

D. 署名は eviDaemon for PAdES を使用して作成されています。

ハッシュアルゴリズム : SHA256

署名アルゴリズム : RSA PKCS#1 v.1.5

タイムスタンプの詳細

署名に埋め込まれたタイムスタンプ

タイムスタンプは、文書に署名されるのと同時に書き込まれます。タイムスタンプ署名が有効であるためには、タイムスタンプを署名したタイムスタンプ局を信頼している必要があります。タイムスタンプ署名の検証に関する詳細を表示するには、「証明書を表示」をクリックします。

タイムスタンプ局(T) edited A2W02-008 証明書を表示(H)...

タイムスタンプはタイムスタンプ局で定義されている特定のポリシーを使用して作成されます。特に、ポリシーによってタイムソースの信頼性を指定できます。このタイムスタンプのポリシーは、識別子 1.3.6.1.4.1.955.1.10.1.5.1 によって表されます。タイムスタンプポリシーを理解するには、タイムスタンプ局に問い合わせる必要があります。

ハッシュアルゴリズム : SHA256

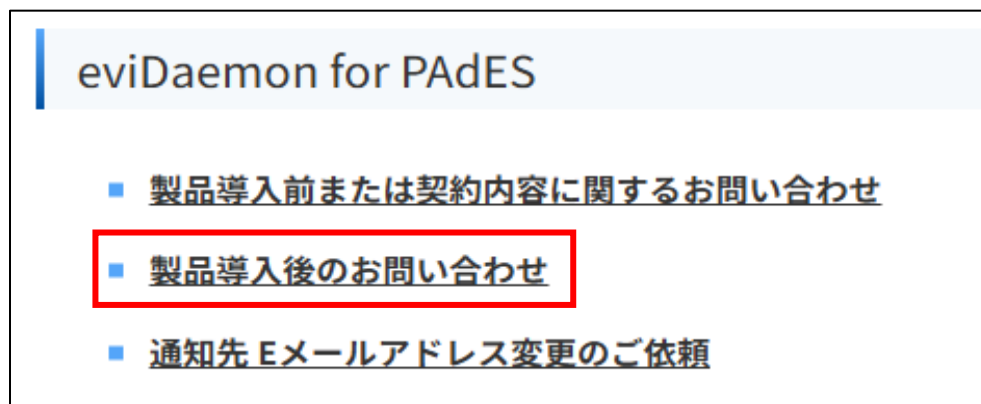
閉じる(C)

6. 上記でも解決しない場合

以下フォームにてお問い合わせください。

お問い合わせの際には、**エラーログ※1)**、**設定ファイル※2)** および**エラーが発生する PDF** 等をご用意のうえ、添付をお願いいたします。

「<https://www.seikotrust.jp/contact/>」



eviDaemon for PAdES

- 製品導入前または契約内容に関するお問い合わせ
- 製品導入後のお問い合わせ
- 通知先 Eメールアドレス変更のご依頼

「eviDaemon for PAdES」 → 「製品導入後のお問い合わせ」を選択

※1) eviDaemon for PAdES のエラーログ（部分抜粋ではなくファイルでのご提供をお願いします）

コマンドラインツールをご利用の場合は、以下のファイルとなります。

API をご利用の場合は、eviDaemon が出力するログファイルの保存先をご確認ください

- ・バージョン 5 系の場合：「導入フォルダ¥timestamp_client¥log¥seiko-pdfets-yyyy-mm-dd.log」
- ・バージョン 6 系の場合：「導入フォルダ¥pades_client¥log¥seiko-pdfets-debug-yyyy-mm-dd.log」

※2) 設定ファイル※使用されている場合にご提供をお願いします。

- ・バージョン 5 系の場合：「導入フォルダ¥timestamp_client¥conf¥cli-config.xml」
- ・バージョン 6 系の場合：「導入フォルダ¥pades_client¥conf¥evip-client.conf」